

J Aバンク千葉における地域密着型金融の取組状況（2018年度）

J Aバンク千葉（千葉県内 J Aと農林中央金庫千葉支店）は、農業と地域社会に貢献するため、2016～2018年度 J Aバンク千葉中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

2018年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

J Aバンク千葉は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク千葉は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

2019年3月末時点の J Aバンク千葉の農業関係資金（注1）残高は 19,284 百万円（うち農業経営体向け貸付金 18,503 百万円）、日本政策金融公庫等の受託貸付金（注2）残高は 3,661 百万円を取扱っています。

(注) 1 農業関係資金とは、農業経営体および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関する事業に必要な資金等が該当します。

2 受託貸付金は J Aバンク千葉が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 単位 百万円

	2019年3月末現在
農業	18,503
穀作	3,737
野菜・園芸	7,292
果樹・樹園農業	700
工芸作物	54
養豚・肉牛・酪農	1,378
養鶏・鶏卵	111
養蚕	—
その他農業（注3）	5,231
農業関連団体等（注4）	781
合計	19,284

(注)

3 その他農業には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。

4 農業関連団体等には、J Aや全農（経済連）とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】

単位 百万円

種 類	2019年3月末現在
プロパー農業資金 ^(注1)	12,867
農業制度資金 ^(注2)	6,416
農業近代化資金	5,750
その他制度資金 ^(注3)	666
合 計 ^(注4)	19,284

(注)

- 1 「プロパー農業資金」とは、J Aバンク原資の資金を融資しているものをいいます。
- 2 「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJ Aバンク千葉が転貸で融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJ Aバンク千葉が低利で融資するものを対象としています。
- 3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。
- 4 表示単位未満四捨五入のため、積み上げが一致しません。

【農業資金の受託貸付金残高】

単位 百万円

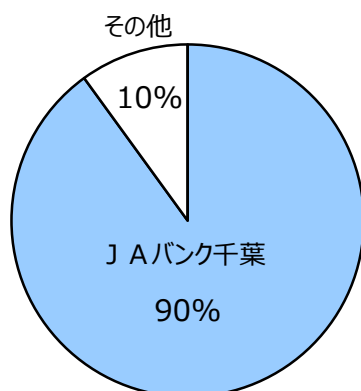
種 類	2019年3月末現在
日本政策金融公庫資金	3,661
そ の 他	-
合 計	3,661

(注) J Aバンク千葉では、主にJ Aを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

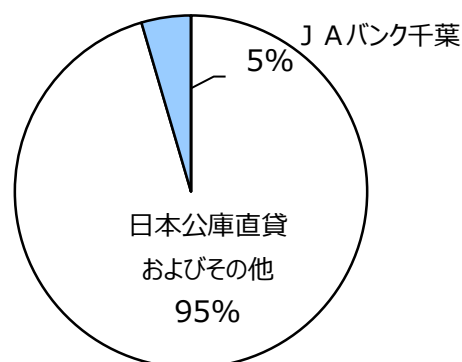
J Aバンク千葉は、主要な農業関係の制度資金である農業近代化資金の取扱いにおいて、融資残高シェアが90%となっています。

【千葉県農業近代化資金および公庫農業資金の取扱いシェア】

農業近代化資金 融資残高シェア
(2018年12月末時点)



日本政策金融公庫 農業資金取扱いシェア
(2019年3月末時点)



(2) 担い手のニーズに応えるための取組み

J Aバンク千葉では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っています。

J Aでは、本支店の農業融資担当者が営農・経済部門等と連携しながら、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。これを支える体制として、豊富な農業金融知

識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を、2018 年度末時点で 19 J A・85 名配置しています。

J A 系統独自の農業融資資格制度「J Aバンク農業金融プランナー」を導入しており、有資格者は 2018 年度末時点で県内に 212 名誕生しています。農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多様化・専門化する農業者の金融ニーズに応えていくことを目的としています。

農林中央金庫千葉支店では、J A のサポート指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「県域農業金融センター機能」を構築しており、これらの機能の拡充、強化に努めています。

これらのほか、J A グループ千葉では、千葉県、(公社)千葉県園芸協会、(一社)千葉県農業会議と一体となって「農業者総合支援センター」を構築しており、担い手に対して、オール千葉による総合的なサポートをワンフロア・ワンストップで行っております。

(3) J A 内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズに J A をあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、J A 内事業間連携を強化しています。

(4) 農業メインバンク C S 調査の実施と結果の活用

J Aバンクでは、J A の農業融資に対する率直なご意見・ご感想をお伺いすることを目的として、お客様満足度の計測（農業メインバンク C S 調査）を行っています。

得られた結果を活用しながら、農業者の声により応えることが出来るよう、農業メインバンク機能の一層の強化に取り組んでいます。

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

J Aバンク千葉は、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク千葉では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、青年等就農資金等を取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】

単位 件、百万円

	2018 年度 実行件数	2018 年度 実行金額	2019 年 3 月末 残 高
青年等就農資金	19	98	282
就農支援資金	—	—	133
J A 新規就農応援資金	0	0	1
その他	—	—	—
合計	19	98	416

(2) 生産者と消費者をつなげる場の設定

J Aバンク千葉では、生産者と消費者をつなげる交流イベント「第 29 回千葉県協同組合フェスティバル～海と大地とくらしの祭典～」(2018 年 11 月 11 日、千葉市千葉ポートパーク円形広場)に主催団体として参画し、約 1 万名の方にご来場いただきました。

会場ではご来場いただいた方にお花の種を配布し、好評を博しました。

(3) 農業法人とのネットワーク拡大

J Aバンク千葉では、地域農業の有力な担い手である農業法人の皆様とのネットワーク拡大、関係強化に取り組んでおります。

農業法人への訪問活動や千葉県農業協会や各種関係団体とのセミナーの開催を通じて、情報提供や関係性構築を図っています。

【2018 年度 セミナー等開催・参画状況】

セミナー名	開催日	主催者	対象参加者	参加者数	内容
2018 年度 養豚経営セミナー	11 月 27 日	主催：海匝地域 畜産振興協議会 共催：農林中央 金庫千葉支店	・養豚生産者 ・県 ・市等関係者 ・養豚関連会社	53 名	題目「農業を取り巻く環境下での経済協定の影響～貿易交渉と日本農業のゆくえ～」 講師：NHK 解説副委員長 合瀬宏毅氏
第一回 J A バンク農業 セミナー	12 月 13 日	主催：農林中央 金庫千葉支店 共催：一般社団法人 千葉県農業協会	一般社団法人 千葉県農業協会 会員	40 名	題目①「はじめての雇用～労務管理・採用・育成のポイント～」 講師①：(株)Y A C コンサルティング常務 古高伸一氏 題目②「アグリビジネスにおける金融提案」 講師②：アグリビジネス投資育成(株)投資育成部チーフコンサルタント 伊沢豊氏

(4) 被災者等への支援

J Aバンク千葉では、2018 年台風 24 号により被災した農業者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金を創設しました。

単位 件、百万円

取組事例	J A名	内容	件数	貸付実行金額
2018 年台風 24 号被害対策資金の対応	J A安房 J Aきみつ J A山武郡市 J A千葉みらい J A富里市 J Aちばみどり	台風で農畜産物の被害を受けた組合員に対し、農林中央金庫および行政の利子補給を受けた低利の資金を対応しました。	78	148
農業生産資材購入にかかる特別支援	J Aちばみどり	J Aちばみどりでは、農業生産基盤および組合員の農業経営の維持と安定を図るため、農業生産コストの負担軽減を目的として低利資金を対応しました。	24	48

(5) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク千葉では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【2018 年度 農業者の経営改善支援等の取組実績】

(単位：先)

	期 初 経 営 改 善 支 援 取 組 先 A	A のうち再生計画を策定した先数			再生計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A	
		A のうち再生計画を策定した先数 a	A のうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	A のうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c			
正常先①	2	1	—	2	50.0%	—	
要 注 意 先	うち その他要注意先②	1	0	1	0	0.0%	100.0%
	うち 要管理先③	0	0	0	0	0.0%	0.0%
破綻懸念先④	1	1	0	1	100.0%	0.0%	
実質破綻先⑤	1	1	0	1	100.0%	0.0%	
破綻先⑥	0	0	0	0	0.0%	0.0%	
小計 (②～⑥の計)	3	2	1	2	66.7%	33.3%	
合計	5	3	1	4	60.0%	20.0%	

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は 2018 年 3 月末時点のものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の徹底

J Aバンク千葉では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 資本供与の取組み（ファンドの活用）

J Aバンク千葉では、農業振興や環境に貢献する取組みを行う企業に投資し、その成長を支援しています。

(2) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク千葉では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【2018年度 負債整理資金の貸出実績】 単位 件、百万円

資金名	2018年度 実行件数	2018年度 実行金額	2019年3月末 残高
農業経営負担軽減支援資金	1	16	53
畜産特別資金	0	0	90
その他	—	—	—
合計	1	16	143

- ・ 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。
- ・ 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

(3) 動産担保融資の活用

J Aバンクでは、農畜産物や事業用車両、各種在庫など様々な動産を担保とした融資を行い、不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組みを行っております。

千葉県における融資の実績は次表のとおりです。

【動産担保融資活用実績】 単位 件、百万円

	2018年度末	
	件数	残高
農産物	—	—
畜産物	—	—
機械設備	3	37
その他	—	—
合計	3	37

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク千葉では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っております。

(1) 食・農への理解促進

J Aバンク千葉は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、J Aバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験

学習の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、JAバンクを通じて、2018年度には県内の小学校807校へ約6万6千冊配布され、学校の授業等において活用されています。

また、県内JAでは、食農教育などの実践活動に取り組んでおり、JAバンクは実践活動にかかる費用の一部を助成しています。

【JAバンク食農教育応援事業による活動内容】

JA名	活動名	活動内容
JAとうかつ中央	C☆Bファーム農業体験	日本ハムファイターズ鎌ヶ谷球場内の畑にて、地域の子どもたちと農業体験・野菜の試食を実施することで、農業への関心を高める。
JAとうかつ中央	芋掘り体験	地域の幼稚園・保育所を対象とした芋掘り体験を実施し、農業への関心を高める。
JAいちかわ	親子料理教室	地元農産物を使い親子で協力して料理をすることで地産地消の大切さ、食材の持つ栄養と丈夫な身体をつくる知識を身につける。
JAかとり	保育所への給食用食材提供	保育所の給食や「おにぎりクッキング教室」への地元食材の提供により、農と食への関心を高める。
JA安房	学校給食への食材提供	JA安房管内の幼稚園、小学校及び中学校の学校給食に対し、30年産新米の白米を提供し、地元食材への興味と関心を高める。
JA市原市	食農農園キッズファーム	お米作りや野菜作り、および収穫した農作物の料理体験を通じて、食の大切さとそれを支える農業の役割について理解深耕を図る。
JA成田市	第3回JA成田市みんなのよい食プロジェクト 稲作り体験教室 芋作り体験教室	管内の小中学生以下の子供がいる家族を対象に、お米作りやお芋作りを体験してもらい、農業への関心を深める。
JA千葉みらい	秋の収穫体験	管内の親子を対象に落花生、さつま芋の収穫体験および、しよいか〜ご店頭にて子供たちによる収穫物の販売体験を実施し、地元の農産物や農業に対する関心を深める。

以上